

社会 1次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	36.2	39.0	トヨタ自動車の「次世代型近未来構想」において、自動運転・ロボット・AI(人口知能)・スマートホームなどを導入して、あらゆるモノやサービスがつながる実証都市をつくるというリード文から、小学校で学習する工業分野を中心とした基礎的な地理の知識や、時事的な知識を問う出題であった。全体的に正答率は高かったと思う。その中でも特に正答率が高かったのは、問2の工業地域や工業地帯と製造品出荷額等に関して答える問題、問3の事業所別規模の構成比、事業所規模別従業者1人あたりの出荷額に関する問題であった。いずれも、工業分野からの出題であったが小学校の教科書においては基礎的な部分であったためにしっかりと解答できていたと思われる。逆に正答率が低かったのは問7の「植物工場」に関する出題。安定した農作物栽培に視点をおいた企業が、近年、使用しなくなった工場を植物工場として再生して、効率的で未来的な農業により収益をあげようとして取り組んでいる。この内容に関しては、小学校の教科書では詳しく学習しない時事的な部分も含まれていたが、詳細な知識を問うのではなく、選択肢をよく読めば消去法で解答を導くことができたであろう。また、問9のIT分野の先端技術に関する出題においても、小学校で学習する地理的な知識と時事的な知識の総合力を必要としたために、正答率が低くなったと思われる。	
	問2	85.2	90.2		
	問3	86.2	91.5		
	問4	74.5	76.8		
	問5	75.5	82.9		
	問6	79.1	81.7		
	問7	59.7	62.2		
	問8	68.4	79.3		
	問9	42.3	52.4		
	問10	85.2	91.5		
【2】	問1	96.4	96.3	古代から近世にかけての略年表をもとに各時代のできごとを問う形で出題した。知識を確認する問題が多かったため比較的解きやすかったのではないと思う。しかし、問2の平城京がおかれた場所を問う問題に関しては、地理的位置の確認が若干できていなかったため、都や遺跡などを地図帳で確認してほしい。また、問7では、鎌倉時代のできごとを考えると、後鳥羽上皇が武家政権を倒し朝廷の復権を目的としておこした承久の乱を認識できていれば容易に答えられたのではないと思う。 学習の積み重ね、基礎基本を大切に学習に取り組んでいただければと思う。	
	問2	75.5	84.1		
	問3	64.3	73.2		
	問4	63.8	75.6		
	問5	96.9	98.8		
	問6	92.9	95.1		
	問7	68.4	69.5		
	問8	86.7	92.7		
【3】	問1	65.8	82.9	日本の格差社会を題材とした出題であった。問3の少子化に関する記述問題では、「特徴」は図を読み取ってまとめればよいので正答率は高かったが、「理由」の正答率は低かった。機械化が進んでいない国においては、年少者も労働力となるので多産の傾向にある。私たちの普段の生活からすると想像できなかったのかもしれない。問3は、貧困の悪循環を断ち切るための政策を問う問題であったが、大学の無償化や貧困世帯への給付金、公共事業による雇用拡大などの解答が多く、普段から新聞などを読んでいると答えやすかったのではないだろうか。問6はグラフの読み取り問題であったが、林業の人口が増加しているのに高齢化率が減少していることに気がつけば、若者の労働力が増えていることがわかる。問7はイスラム圏の人々が日本で暮らすなかで、社会が配慮できることについて問う問題であったが、どちらか一方のみの視点から答えている受験生が多かった。例えば、「肉料理や飲酒を禁止する」という答えがあったとして、現実的に考えて、それを既存の社会は受け入れられるだろうか。多文化共生はお互いの文化を尊重した上で成り立つので、両者の視点を持ってほしい。リード文の最後でも、問題発見・解決能力の重要性に触れたが、そのためには、自分だけでなく、他者の視点も持ちながら物事を考える必要がある。日ごろから政治・経済・国際などのニュースを読んで知識をたくわえ、広い視野を獲得するように意識してもらいたい。	
	問2	特徴	54.1		56.1
		理由	5.1		6.1
	問3 記述	①	50.3		56.1
		②	37.8		52.4
	問4	93.4	98.8		
	問5	(2)	69.4		73.2
		(3)	81.6		84.1
		(あ)	46.4		59.8
	問6	36.7	45.1		
	問7 記述	①	39.3		40.9
②		32.9	38.4		

社会 2次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	86.0	92.6	<p>地理に関連する歌が含まれる百人一首を題材として出題した。自然、産業、交通、文化、地図、統計など地理分野の内容を総合的に問う問題であった。</p> <p>問3は百人一首の意味を知らなくても、問2から京都府をイメージできれば、選択肢を絞れたと思われる。問4は問題文中の大和三山や選択肢から奈良県との断定は容易であったが、淀川がどこの都道府県を流れているのか、地図学習の有無が正答率に現れていた。問5は豊中市や吹田市が大阪府の都市であることが解答のポイントで、どの都市がどの都道府県に位置しているのか、体系的な学習をしているかどうか問われた。問7は観光、交通、農業など多面的なヒントから鳥取県を解答する問題であった。問10は、歌の意味や問1～9などをヒントに、地図上での位置を整理する問題であった。問4と同様に、自分の知っている場所(都市、地形など)が地図上のどこに位置しているのか、日頃から地図帳を用いた学習習慣が確立されているかどうか重要であった。</p> <p>社会の科目は暗記だけの学習では十分とは言えない。もちろん、基礎的な用語は覚えるべきであるが、その知識を様々な事象と結び付けて体系的に学習する必要がある。地理分野であれば、地図帳の活用は必須であるので、学習した場所は必ず地図帳で確認する習慣をもってほしい。</p>	
	問2	66.8	79.2		
	問3	38.7	43.5		
	問4	58.4	67.1		
	問5	28.8	29.2		
	問6	75.5	85.6		
	問7	49.6	57.9		
	問8	75.5	84.7		
	問9	88.6	93.5		
	問10	50.4	60.6		
【2】	問1	(1)	34.1	42.1	<p>歴史上、著名な戦場や城を題材として古代から近世まで幅広く出題した。歴史の総合的な知識を身につけているかを判断する問いに対して、全体的に良く答えることができていた。①は壬申の乱、②は長篠合戦、③は多賀城、④は島原・天草一揆、⑤は壇ノ浦の戦い、⑥は元寇のカードであった。多くの受験生は絵と文章からどこをあらわしているカードであるのかをきちんと把握できていた。</p> <p>問1(1)は壬申の乱で友友皇子に勝利した人物であることは文中から読み取れていた。しかし、「大海」皇子と正しく覚えている受験生が少なく、「大海」皇子という誤答や、天武天皇と書いていた解答が多く、正答率が低くなっていた。天武天皇はこの乱で勝利したあとに即位した名前であるので、注意してほしい。</p> <p>問7は、問題文に「①～⑤のカードが示す場所」と書かれているにもかかわらず、⑥まで選択肢に入れて答えている受験生が多く、そのために正答率が低くなっていた。③は多賀城であることを認識できた受験生は少ない(多賀城という知識はなくても良い)と思うが、文中から東北地方に築かれた城であることを認識してほしい。そこから、③が一番東にあるという判断をしてほしい問題であった。全体的に戦いや城の名前までは憶えていたが、地図帳を使用して、場所の確認までしている受験生が少なかつたと思われる。戦いや城の名前を覚えるだけでなく、場所も地図できちんと確認してほしい。地理の学習時のみならず、歴史も地図帳の活用は必要不可欠である。地名が出てきたら、必ず確認するようにしてほしい。</p>
		(2)	93.2	96.3	
		(3)	89.6	94.9	
		(4)	80.9	88.0	
	問2	90.1	94.0		
	問3	65.1	75.5		
	問4	78.2	88.4		
	問5	72.2	80.1		
	問6	82.8	91.2		
	問7	3番目	47.2	54.6	
5番目		28.6	30.1		
【3】	問1	34.4	46.3	<p>日本国内における観光業の歴史をテーマとして、現在の社会が抱える課題について考えさせる問題を出題した。この単元については、最近のニュースでも話題となっていたことから、普段から情報収集を心掛けていれば対応しやすい内容であった。</p> <p>問1は語句を問うものであったが、正答率が全体を通して低かった。観光業界では訪日外国人観光客を「インバウンド」、海外旅行に行く日本人のことを「アウトバウンド」と呼ぶことを知っておくといいたい。</p> <p>問2～4は、提示された資料から読み取れるものを答える問題であり、専門的な知識が必要とされていないが、丁寧に見ないと失点が目立つことになる。【1】と【2】に時間を多く割いてしまうと、丁寧に検討する時間の確保が難しかったに違いない。この試験に限らず、【3】の問題は時間がかかるものが多いため、普段の過去問練習から時間配分を注意するようにしたい。</p> <p>問5は問題文で求められている条件を満たしておらず、部分点となっているものがあつたが、全体的には正答率の高い記述問題であった。2つの資料から読みとれる「近場の国からの観光客が多い」という事実を、具体例を挙げながら説明しよう。</p> <p>問6では、各都道府県に対するイメージを問うものだった。(注)のヒントに気づけた受験生は答えることが出来ただろう。千葉県のテーマパークや、島根県の出雲大社、そして沖縄の豊かな自然などを判断材料として、消去法で解答を導く問題である。</p> <p>問7は、正答率が全体と合格者とで大きく差が生じた問題であった。1990年代までの経済成長とバブル経済の崩壊を軸に、大型施設の運営に苦戦したことが記述できていると望ましい。</p> <p>問9の記述は、問5と同じように2つの資料から読みとれる情報と、その理由について説明する問題であったが、片方の資料についてしか述べられていないものが目立っていた。「地方の観光地」が抱えている問題点を述べる必要があるにも関わらず、大都市の観光問題を述べている受験生は、明らかに問題文が読めていない証拠である。記述内容の方向性を誤ると、どれだけ書いても得点につながらないため、決して読み飛ばさないようにしよう。</p>	
	問2	63.0	69.4		
	問3	82.3	85.6		
	問4	68.5	72.2		
	問5	記述	71.4		84.1
	問6	44.6	48.6		
	問7	記述	9.2		25.5
	問8	51.3	59.3		
	問9	記述	23.7		31.6

社会 3次 正答率・講評

問題			正答率 (%)		講評
			受験者	合格者	
【1】	問1	番号	84.9	97.7	国立公園をテーマに、関連する歴史・文化・産業などについての出題であった。合格者と受験者の正答率を比較すると、その差が全体として大きかった出題であったといえる。例えば、リニア中央新幹線の南アルプスルートに関する時事的な出題であった問4は、約12～14ポイントの差がついた出題であった。地理的な地名の暗記を中心とした学習に終始するのではなく、地名と、自然や歴史・文化・産業などを関連付けながら、問題意識を持った学習を心がけて欲しい。問6は、「二次的自然」の具体例を問う出題であった。知識を問う出題ではなく、問題文から意味を読み取り、実際の自然環境とその成り立ちや活用の仕方などを考えて解答する必要があった。受験者と合格者の正答率の差も15.5ポイントと大きく開いた出題であった。 具体的な学習法の一つとしては、ニュースなどでくる地名や地域について、地図帳で位置を確認し、関連する歴史や産業について、簡潔にまとめ、問題とされていることがあれば、かきとめ、その対応策を考える、という方法をあげておく。単なる暗記ではない、考える学習を、日頃から意識して欲しい。
		記号	78.5	77.3	
	問2	番号	68.5	79.5	
		記号	82.6	93.2	
	問3	番号	79.0	90.9	
		県名	82.6	90.9	
	問4	番号	68.0	81.8	
		記号	63.0	75.0	
	問5	番号	83.6	75.0	
		条約名	92.7	90.9	
問6		82.2	97.7		
問7		59.4	72.7		
【2】	問1	(1)	37.0	65.9	沖縄の歴史を題材として、日本の古代から近世までの範囲を出題した。 問1(1)は10世紀後半といったところから、日本では平氏政権と鎌倉幕府の成立を推測してほしい。そして平氏政権の経済基盤の一つが日宋貿易であることを認識していれば、宋という答えを導き出せる。(3)も14世紀から室町幕府を導き出してほしい問題だったが、文中の「混乱の時代に終止符」という箇所から江戸幕府と書いている誤答が見受けられた。文章をしっかりと読んでほしいと同時に、南北朝の動乱は戦乱の時代であったこともしっかりと認識してほしい。 問2は問題文の「狩猟採集が中心であった時代」が縄文時代であることを認識してほしい。高床倉庫は弥生時代の建築物である。 問3は鑑真・行基が奈良時代、天平文化で登場する人物、日蓮は鎌倉時代、鎌倉文化で登場する人物となる。文化名と時代をセットで理解できるようにしてほしい。 問4(ア)は国司ではなく、守護である。国司は奈良・平安時代に中央から国府に派遣され、政務をとった役職をさす。 問5は世界遺産というひとくくりに覚えるのではなく、それぞれの地域がなぜ世界遺産登録されているのかを背景まで理解してほしい。 問6は本文に「航路の中継地点として那覇に多く商船があつまりました」とあるので、那覇を中継している航路を選ぶ問題である。 問7は(ウ)豊臣秀吉の時代→(ア)徳川吉宗の時代→(イ)幕末→(エ)明治初期という時代把握をしてほしい問題であった。
		(2)	72.6	79.5	
		(3)	66.7	75.0	
		(4)	88.6	95.5	
	問2		57.5	65.9	
	問3		53.4	68.2	
	問4		63.9	72.7	
	問5		59.4	81.8	
	問6		68.0	84.1	
	問7		74.0	86.4	
【3】	問1		37.9	45.5	架空のディベートの記録より出題を行った。分量が多かったので試験時間内での読み取りが難しかったかもしれないが、資料内にある①②の数字がそれぞれ論点の対応関係をあらわしていることに気づけば、構造はつかみやすかっただろう。 問1は、すでに二度の恐慌を経験している日本にとっては、世界恐慌の影響は相対的に小さかったであろうこと、恐慌対策を始めている1933年より工業生産が回復している(ウ)・(エ)がアメリカとドイツであろうこと、恐慌の影響を受けていない(ア)が日本ではありえないこと、などから総合的に判断することができただろう。日本が世界恐慌で大打撃を受けたはずであるという固定観念にとらわれていると誤ってしまう問題であった。 問2は、民族の分布についての情報が地図中になくことから判断は容易だったが、「アフリカの紛争は植民地時代に民族の分布を無視して国境がひかれたことが原因である」という固定観念を持ってしまっていると誤答してしまったかもしれない。 問3(あ)は「税金」という誤答が多かったが、文章をよく読めば、動作を示す言葉が入ると推測できたはずである。 問4は、問いをよく読んで「コロリーベース」「生産額ベース」の概念を理解することができれば、正誤判定は容易だったことと思う。教科書などでは「コロリーベース」の数値を採用することで、日本の自給率の低さを強調する傾向にある。 問5は「繊維物業の特徴」「その特徴が機械の発明につながる理由」の2つの内容を聞いているので、それぞれの問いに対して丁寧に答えられているかどうか採点のポイントになった。 問6に関しては、アメリカ北部は工業が主産業で保護貿易を主張していたこと、アメリカ南部は農業が主産業で自由貿易を主張していたことは資料から読み取ることができるが、そうなる理由については、ディベートの記録を参照する必要があった。否定側の最終弁論によると、「国際競争力を持つ産業においては自由貿易が有利に働き、国際競争力をもたない産業においては自国の産業を守るために保護貿易を採用する必要がある」とされる。ここから、当時のアメリカでは農業の方が工業よりも競争力を持っていたと推測できるのである。なお、アメリカ北部と南部を、北アメリカと南アメリカのことを指すと誤解した解答がいくつか見られたが、あくまでアメリカ合衆国内での北部と南部のことを指している。 問7については、あくまで客観的な立場から、評価基準にのって評価をできているか、という点が採点のポイントとなった。どちらかの立場に肩入れし、自分の意見を述べてしまっている解答は残念ながら誤答とした。
	問2		43.8	47.7	
	問3	(あ)	38.4	52.3	
		(い)	58.0	77.3	
	問4		48.9	75.0	
	問5	記述	9.7	20.5	
	問6	記述	11.7	20.5	
	問7	記述	7.9	14.2	